

国際政治経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
313	国際政治経済学演習 (最上敏樹)	通年	3年以上：4単位	最上 敏樹 政政・経演・国演

副 題
Subtitle

国際立憲主義の諸問題

授業概要
Course Description

国際法制度（国際法および国際機構）が国際秩序の形成にどのような役割を果たしているかについての基本文献を読み、教員との質疑応答を行い、参加者で討議する。それを踏まえて後半では、参加学生による研究報告もしてもらう。

文献としては、まずは担当教員のこれまでの研究成果を理解してもらうことが必要なので、教員自身の著書からいくつかを選ぶ。それを踏まえ、また参加者の学力レベルや意欲を見た上で、英語文献の輪読・討議なども加える。

国際法および国際機構論のいずれか、あるいはその両方に興味があり、かつそれらを総合した学習をしたいという学生諸君の参加を歓迎します。

授業の
到達目標
Objectives

国際法および国際機構論の中の、国際秩序に関わる現代的諸問題を学び、なぜ国際立憲主義を論ずべきなのかについての理解を深める。

まずは基本的な知識の習得および、この分野の方法論の学習が目的であり、それにそった文献の精読を行う。あわせて、それらをもとにした討議を行い、いかにして自分の議論を組み立てるかの訓練も行う。

現代的なテーマをもとに自由闊達な議論をすることも、この授業の目標である。

授業計画
Course Schedule

第1回 - 第6回：「人道的介入」（最上敏樹）を読み、討議する。

第7回 - 第12回：「国連とアメリカ」（最上敏樹）を読み、討議する。

第13回 - 第22回：「国際立憲主義の時代」（最上敏樹）を読み、討議する。

第23回 - 第30回：英語文献講読（候補：Barnett & Finnemore, Rules for the World, 2004）および受講者による報告

教科書
Textbook(s)

（上記「授業計画」を参照のこと）

参考文献
Reference Book(s)

（同上。必要に応じて追加します）

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	
平常点評価 Class Participation	50 %	
その他 Other	%	

備 考
Note

上記「成績評価方法」はいちおうの目安であり、最終的には受講者と相談して決定し、通知します。

関連URL
URLs for References